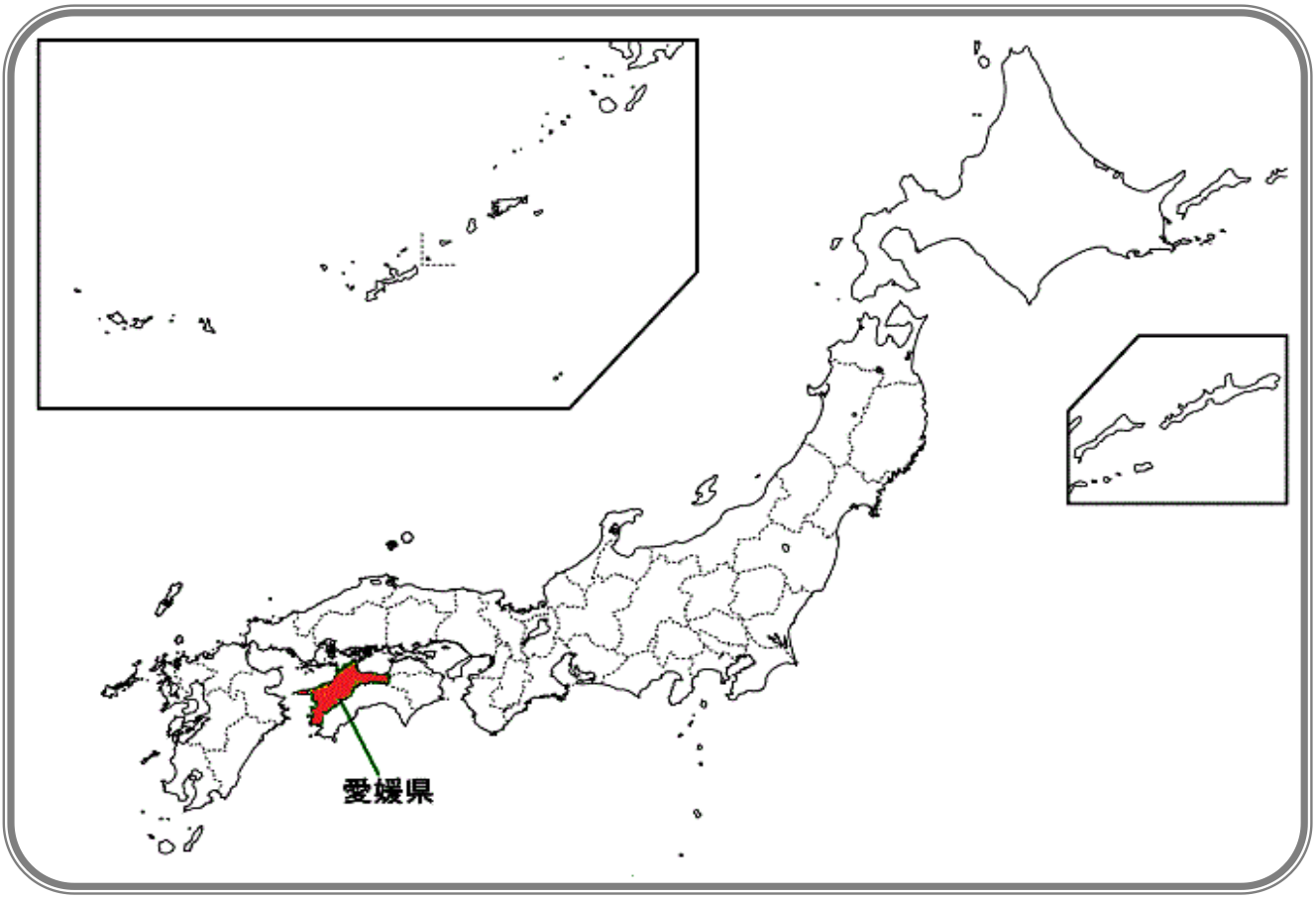
獣医師養成大学、獣医師の皆様

愛媛県の獣医公衆衛生行政

愛媛県保健福祉部

愛媛県のすがた

愛媛県は、四国の北西に位置し、北側には瀬戸内海に面した平野が広がり、南側には西日本で最も高い石鎚山（1,982m）がそびえています。瀬戸内海・宇和海には 200 余りの島々があり、海・山両方の美しい自然に恵まれています。気候はおだやかで、人口は約 133 万人（全国 28 位）、面積は 5,675km^2（全国 26 位）、入り組んだ海岸は 全国 5 番目の長さ（1,716km）です。また、国宝・重要文化財の多い大山祇（おおやまづみ）神社、村上水軍、松山城、道後温泉、内子町をはじめとする南予の古い町並みなど多くの歴史と伝統ある文化が伝えられています。



愛媛県イメージアップキャラクターの　みきゃん　です！

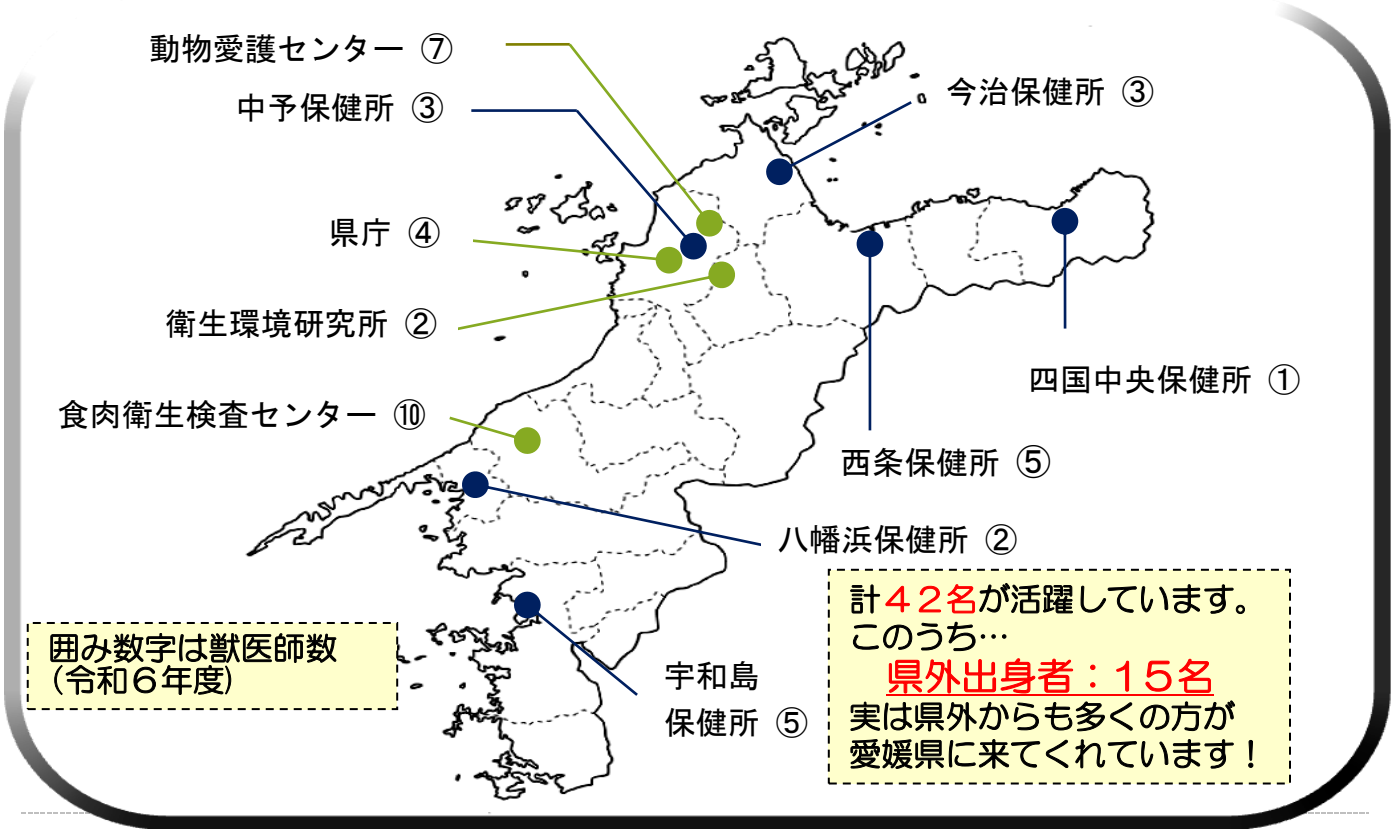
みかんと、野を駆ける動物に似た愛媛県の形と愛媛の方言「～やけん（犬）。」から、犬をモチーフにしたキャラクターです。

○　みかんの「み」と子犬の鳴き声「キャン」をあわせた名前です。
○　表記の方法を変えるとアルファベットの当て字で「MICAN」となり、「みかん」をもじったものにもなっています。
○　「きゃん」には、「can（できる）」の意味もあり、いろいろなことに挑戦していくという前向きな気持ちを込めています。
○　獣医師の皆さんは「Canis」を思いつきますよね！

県内で活躍する公衆衛生獣医師

公衆衛生獣医師は、県内６か所の保健所、食肉衛生検査センター、動物愛護センター、衛生環境研究所を中心に活躍しています。
このほか、とべ動物園（派遣）、家畜保健衛生所（人事交流）など、幅広い分野に配置されています。

- 保健福祉部（県庁）
  - 社会福祉医療局
    - 食肉衛生検査センター（大洲市）
    - 動物愛護センター　（松山市）
    - 衛生環境研究所　（東温市）
  - 健康衛生局
    - 薬務衛生課
- 東予地方局
  - 健康福祉環境部
    - 生活衛生課（西条保健所）
    - 今治支局生活衛生課（今治保健所）
    - 四国中央保健所衛生環境課
- 中予地方局
  - 健康福祉環境部
    - 生活衛生課（中予保健所）
- 南予地方局
  - 健康福祉環境部
    - 生活衛生課（宇和島保健所）
    - 八幡浜支局生活衛生課（八幡浜保健所）



公衆衛生獣医師の主な業務内容 ①

保健所

１　食品衛生関係

　食肉の生食による食中毒事件など、食の安全・安心が問われる問題が相次いでおり、多くの獣医師が、生産から流通段階に至る食品の安全を確保し、人々の不安をできる限り小さくできるよう、各種業務に取り組んでいます。
・食品関係営業施設の許可、監視指導やＨＡＣＣＰ導入支援
・食中毒発生時の調査　　など

２　生活衛生関係

・理美容、クリーニング、公衆浴場、旅館等の環境衛生関係施設の許可や監視指導
・狂犬病予防等に関する指導や相談
・小規模な食鳥処理場に対しての衛生指導や監視　　など

国立保健医療科学院研修や国が開催する食品衛生監視員研修会等へ職員派遣も行っています！

食肉衛生検査センター

　と畜場や大規模食鳥処理場に搬入される獣畜・食鳥の検査を実施し、疾病にかかった食肉を排除するとともに、微生物・ＢＳＥ検査のほか、設置者に対する衛生指導などを行っています。
※ と畜場１か所(大洲市)、大規模食鳥処理場１か所(西予市)を所管しています。

内蔵検査(牛)

枝肉検査(豚)

精密検査

国立保健医療科学院が行う食肉衛生検査研修等へ職員を派遣し、専門的知識を有する人材の育成にも努めています！

岡山理科大学・獣医学部との共同研究も行っています！

公衆衛生獣医師の主な業務内容 ②

動物愛護センター

1　動物愛護管理

家族の一員としてペットを飼う人が増えていますが、一方近隣に配慮しない一部の飼い主によるトラブルも起きているほか、未だ県動物愛護センターに収容される犬・猫が多い現状にあります。人と動物が共に暮らす豊かな社会を目指して、動物愛護の精神を普及させていくのは、まさに獣医師の役割といえます。

- 愛護事業（愛護啓発活動、犬猫譲渡、負傷動物の収容治療など）
- 管理事業（収容動物の処分、動物取扱業者登録・指導、特定動物飼養許可など）

2　動物由来感染症

狂犬病、鳥インフルエンザなど動物由来感染症に対して、人への感染を未然に防止するため、調査研究や県民への正しい知識の普及等を行っています。

動物愛護教室

譲渡犬の訓練

マイクロチップ装着

負傷動物の治療

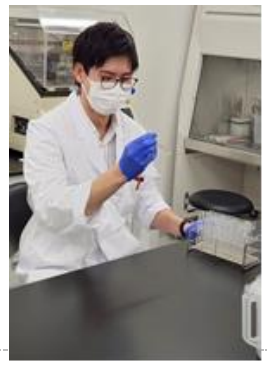
動物愛護センターでは、いろいろな愛護事業をしています。

- 健康管理やマイクロチップ挿入を行った犬猫の譲渡事業
- 動物愛護の普及のために、動物愛護教室、犬のしつけ方教室、各種イベント等の開催
- ペットの防災対策の啓発活動のために、ペットとの同行避難の講習会等の実施

など、関係機関等とも協力しいろいろな取組みを行っています！

衛生環境研究所

感染症の原因となる細菌やウイルス、リケッチア等の分離・同定検査や抗体検査、遺伝子増幅検査、ゲノム解析、微生物高度安全実験室や次世代シークエンサー等を使用した高度な検査を実施するとともに、各種調査・研究を行っています。



動物愛護センターと共同で、狂犬病等の動物由来感染症調査も行っています！

その他の職場

- とべ動物園（派遣）
- 薬務衛生課（食品衛生、動物愛護等）

先輩職員の声

衛生環境研究所　主任研究員　平井 真太郎

Ｑ１　現在の仕事内容を教えてください。

愛媛県立衛生環境研究所で、細菌の検査・研究を行っています。具体的には、県内で発生した腸管出血性大腸菌の解析を行いその動向を把握したり、食中毒発生時に原因究明のための検査を実施しています。公務員獣医師の仕事といえば、畜産分野のイメージが強いかもしれませんが、食品・生活衛生関連や動物愛護関連、動物由来感染症等、公衆衛生分野にも獣医師の活躍の場は十分にあります。

Ｑ２　県職員を目指したきっかけは何ですか？

就職先を考えるとき、“獣医師の資格を活かしながら社会に貢献したい”という思いが常に根底にありました。獣医師の資格が求められ、獣医師の需要があり、社会に貢献できる職場を考えた結果、県職員に至りました。また、私は県外出身ですが、愛媛県は住みやすくて良いところだと思います。

Ｑ３　仕事で大変だったことは何ですか？

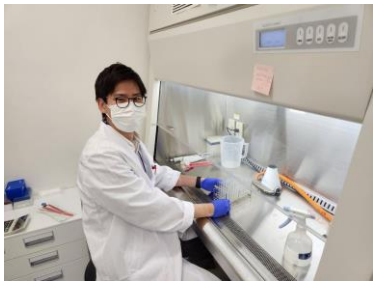
日常業務をしながら県が主催するイベントのお手伝いもしなければならない時があり、ルーチンワークの調整が難しかったです。特に令和５年度に開催された「ねんりんピック愛顔のえひめ 2023」では、非常に忙しく大変でした。しかし、県職員でなければ経験し得ないような貴重な経験だったと思っています。

Ｑ４　県職員になって良かったと感じたのはどんな時ですか？

同じ職場にいろいろな方がいることは、良いところだと思っています。獣医師だけでなく薬剤師や臨床検査技師等の別職種の方もいれば、子育てをしながら働く方や遠距離通勤の方、県外出身の方もいるので、人間関係が深まり、多角的に物事を考えることができるようになると思います。

Ｑ５　愛媛県の「いいところ」ってどんなことですか？

温暖な気候に、温厚な人々、豊かな自然といった過ごしやすい環境に、新鮮な魚介類や豊富な柑橘類といった美味しい食べ物等々、たくさんあります。個人的には、温泉がたくさんあるところも良いですね。道後温泉をはじめ、県内各所の温泉によく行っては癒されています。



Ｑ６　学生さんにメッセージをお願いします。

公衆衛生獣医師の業務には、動物愛護を推進して人と動物が共生できる社会の実現に貢献したり、食品衛生の分野では県内で製造・加工された食品を食べる日本中、世界中の人々の健康を守るといった大きなやりがいのある仕事がたくさんあります。

また、仕事以外の時間を充実させている職員も多く、働きやすい職場だと思います。

皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

（入庁７年目）

先輩職員の声

西条保健所　係長　河瀬 智子

私は、早い段階から公務員志望でした。いずれは結婚も出産もしてみたい、その後も獣医師の資格を生かして働いていきたいという思いがあったからです。

現在、２人の子供を育てながら保健所に勤務していますが、愛媛県は出産・育児に対するサポートが厚く、大変ありがたいことだと感じています。また、所内には獣医師の他にも様々な職種の職員が勤務しており、その多くが子育て経験者です。業務に関することだけでなく、育児の悩みも相談できる人が身近にいることは、大変心強いものです。

妊娠中には、「つわり休暇」や妊婦健診を受ける際に「母子保健休暇」を、また出産後は１人目で１年間、２人目では１年半の「育児休業（最大３年間取得可能）」を取得し、その間は育児に専念することができました。復帰後も、「育児短時間勤務（子供が小学生なるまで取得可能な、１週間の勤務時間を 19 時間 25 分から 24 時間 35 分の間で選択できる制度）」や「時差出勤（勤務時間を早出や遅出に変更可）」といった制度を利用しながら勤務してきました。この間、子供の通院で「看護休暇（子が２人以上なら年間 10 日、１人なら５日）」を取得することもありました。この看護休暇は、予防接種の際にも取得可能で、特に子供が小さい間は頻繁に病気に罹る上に、何種類ものワクチンを複数回接種する必要があるため、大変助かりました。他にも「部分休業」や「保育時間休暇」等、多様な制度があり、職場の状況や勤務地によって、自分に合ったものを選択することができます。

さて、県職員となると数年おきの異動は宿命で、異動範囲も広いために躊躇するかもしれませんね。しかし、夫婦がともに県職員の場合は、育児しながら勤務しやすいように勤務地もある程度考慮されているようです。

育児しながら働き続けるのであれば、家族の協力はもちろんですが、職場の理解や支援制度が必須です。子育て支援の制度は整っていても、前例がなければ、いざ利用しようとするときに二の足を踏むかもしれません。しかし、愛媛県の公衆衛生分野においては心配無用です。

現在、私の所属する課では３名の職員が育児休業を取得し、子育てに勤しんでいます。女性獣医師の皆さん、育児しながら働きやすい環境の整っている愛媛県で公衆衛生獣医師として一緒に働きましょう。男性獣医師の皆さん、愛媛県は男性の育児参加を推奨しています。私の同期の男性職員は妻の職場復帰と入れ替わりで、１年間育児休業を取得しましたよ。積極的な育児参加を希望されるなら、ぜひ愛媛県へ。皆さんの入庁をお待ちしております。

（入庁 20 年目）

先輩職員の声

八幡浜保健所　　担当係長　　滝沢 浩司

一般の方の獣医師に対するイメージはおおよそが「犬猫病院の獣医さん」だと思います。しかし実際には獣医師は皆さんご存知のとおり、小動物臨床、産業動物臨床、薬剤会社等の企業や研究職等様々な分野で活躍しており、また中央省庁や地方自治体においても獣医師は社会的に大変重要な役割を担っています。しかし、実際に公務員獣医として愛媛県への就職を考えるにあたり、皆さんの中にも色々な疑問や不安を持たれる方もいるかもしれません。

そこで私の経験からいくつか疑問にお答えしたいと思います。

〇県外出身ですが大丈夫ですか？

愛媛県の公衆衛生獣医師には県外出身者も多く、私も関東出身で、就職するまで愛媛県についてほとんど知りませんでした。しかし実際移住してみると、気候が穏やかで台風等の大規模災害も少なく、食べ物も美味しい大変住みやすい土地柄だという事を実感しています。

〇どのような職場に配属されるのですか？

私の場合は大学卒業後４年間動物病院に勤務した後、県に就職し、最初は保健所で動物愛護や狂犬病予防、環境衛生関係等の仕事に従事した後、愛媛県立とべ動物園に配属され飼育動物たちの健康管理や治療ならびに希少動物の人工授精等に従事しました。その後は県庁で動物愛護や狂犬病予防、食肉衛生関係業務及びこれらに係る予算措置や政策立案等に従事しました。そして現在はまた保健所に戻り、食品営業許可や HACCP 衛生管理、施設監視による食中毒防止等、食品衛生に関する業務に従事しています。このように公衆衛生獣医師は様々な分野の業務を担当しなければならず、覚えることが多い職場ですが、その分自分のレベルアップを実感することが出来るやりがいのある職場でもあります。

〇男性でも育児に参加しやすい環境ですか？

愛媛県では「愛媛県職員愛顔（えがお）子育て・女性活躍サポートプラン」として男性職員の育児参加を推奨しており、職場が協力して育児休暇を取得できるように全力でサポートする体制があります。

私も配偶者の出産前後及びその後の育児の際に育児休暇を取得して、積極的な育児参加が出来ました。

愛媛県は住みやすく、かつ働きやすい条件が整った魅力ある職場ですので、是非皆さんも愛媛県に就職していただき、愛媛県の未来を一緒に築いていきましょう！

（入庁１９年目）

アフリカゾウの健康観察(県立とべ動物園)

先輩職員の声

食肉衛生検査センター　　担当係長　　金子 俊朗

私は、大学卒業後、５年半、他県の動物病院２施設に勤務しました。土日、昼夜も関係なく一心不乱に働きましたが、果たして仕事づくめの人生で私は良いのだろうか、と疑問を持ち、３０歳を目前とし、出身地である愛媛県に戻り、獣医師として働きつつも、ワークライフバランスの取りやすい愛媛県職員となりました。

それから１２年余りがたち、今は愛媛県職員の妻と、小学生の娘、保育園児の息子と生活をしています。現在は、息子の送り迎えを私が、娘の学童へのお迎えを妻が担当しています。学童のお迎えは、本来の定時である 17：15 の退庁では間に合わないので、妻は３０分前倒しの時差出勤（8：00 始業、16：45 退庁）制度を利用し、あわただしいながらも、家事、子育てを協力して行っています。また、子供が幼いうちは、体調を崩して学校や保育園からお呼び出しされることもありますが、愛媛県には「看護休暇（子１人あたり５日）」の制度があり、それを利用し、子供の看護のための時間を取ることもできます。周囲には共働き家庭の先輩職員も多く、子供のための休暇取得にも理解を示してもらえ、大変助かります。

県職員となると、数年周期での県内各拠点への転勤があります。転勤の希望についてのヒヤリングがあり、また、子供が幼いうちは特に、家から通勤できる範囲の拠点への転勤など、一定の配慮もしてもらえます。仕事の内容は配属先により、保健所（食品衛生・生活衛生）、動物愛護センター（動物愛護）、食肉衛生検査センター（食肉衛生）、衛生環境研究所（検査・研究）・県庁（統括、他自治体や国との調整）と多様で、飽きる暇はありません。

今の所属の食肉衛生検査センターは、と畜場や大規模食鳥処理場で、家畜（家きん）の内臓や枝肉（と体）の検査を行い、食用に適するかどうかを検査する「と畜（食鳥）検査」と、と畜場（食鳥処理場）内の衛生指導を行っています。

新型コロナウイルス感染症による様々な働き方改革も引き続き利用でき、職場のノート型パソコンを持ち帰り、モバイルルーターを使用して自宅でのテレワークも可能です（現に、この原稿はテレワークで作成しています）。

愛媛県職員は、週に２日の連続したお休み（通常は土日）と祝祭日、年末年始がお休みとなるのに加え、年間 20 日間の有給休暇（20 日まで翌年に繰り越し可）が与えられます。有給休暇は１日単位でも休暇は取れますが、１時間単位でのお休みを取ることもできます。仕事に煮詰まったら早めに切り上げて、１、２時間休暇を取り、お茶してから家へ帰る、ということでリフレッシュもできます。

食育の講習会に講師として招かれて

仕事も、家庭も、趣味も、何もかも打ち込みたい欲張りなあなた、ぜひ愛媛県へ。皆さんの入庁をお待ちしております。

（入庁１３年目）

先輩職員の声

食肉衛生検査センター　　主任　　田窪 憲一郎

愛媛県への就職をお考えの学生の皆さん、既卒者の皆さん、こんにちは！
見た目は立派なオジサンですが、私はまだ入庁1年目のヒヨッコで、入庁後食肉衛生検査センターに配属されて新米と畜検査員をしています。

高校卒業後に松山の実家を離れ、大学の6年間、卒業後動物園・水族館に就職して9年間の併せて15年間を関東で過ごしました。学生の頃は長期休みのたびに動物園・水族館の実習やボランティアに行ったり、野生動物管理会社でアルバイトをしたり、マレーシアに野生動物観察に行ったりと、動物園・野生動物志向が強く、正直な話、愛媛に帰って働くとは思ってもみませんでした。コロナ禍をきっかけに実家に帰ることになり、県庁を受験しました。他の選択肢がある中で県庁を受験した理由としては、配属先にとべ動物園があることで、愛媛に帰って動物園で働く機会をつかむには、県職員しかない、と考えたからです。

と畜検査員の仕事はこれまでやってきた仕事とは大きく異なりますので、１から学びなおしをしている最中です。現場での判断や書類の作り方など、戸惑うことも多いですが、職場の雰囲気は良いので、上司や先輩職員に質問や相談がしやすく、根気強く丁寧に指導をしてくださっているので、少しずつできるようになっています。

以前の仕事は民間企業で、シフト制だったので中々長期の休みが取ることが難しかったのですが、県職員になってからは基本的にカレンダー通りの休みになりました。また、祝日休、夏休など休みの数も増えたので、連休に有給を組み合わせればある程度の長期休暇が取れるのではないかと思っています。また海外に行けるようになってきたので、休みを利用して野生動物観察の旅行にいきたいなぁと思っています。

卒後臨床などに進んで、「なりたかった獣医師」になるべく、あるいは学生の方で、これからなろうと日々まい進されている方もいらっしゃると思います。一方で、家庭のことや理想と現実のギャップを感じることなど、壁にぶつかってしまうことがあると思います。そんな時に第二の選択肢として、「公衆衛生獣医師」もあることをぜひ心にとめておいてください。実際に、臨床など他の仕事を経験してから県職員になった先輩が多い印象です。獣医の仕事としては家庭やプライベートとのバランスを取りやすい仕事でもあると思います。地味に見えるかもしれませんが、食肉衛生や動物愛護など、県民と動物の接点の安全を守る、獣医師にしかできないやりがいのある仕事です。職域が広く様々な仕事を経験できることも、獣医師の仕事の面白さではないでしょうか。

（入庁１年目）

先輩職員の声

動物愛護センター　　主任　　田川 晃世

卒業後の進路を考えるに当たって、いろいろな選択肢があると思いますが、公務員獣医師についてどういう印象を持たれていますか？公務員獣医師と言っても、どんな仕事があるのか、具体的にイメージできない方も多いのではないでしょうか。

私自身も、大学卒業後は動物病院で勤務し、小動物臨床に携わっていました。そんな私が、県職員を考えたきっかけは、結婚・出産・子育てという転換点を迎えたことでした。子育てをし始めると、どうしても勤務時間に制約ができたり、急に休みを取らなければならなくなったり、自分一人だった時には考えてもみなかったことが起こりました。

そこで、出産・育児に対するサポートが充実している、県職員が選択肢にあがりました。実際現在は、「保育時間休暇（子どもが3歳になるまで取得可能な、1日の上限が1～2時間の有給休暇制度）」や、「看護休暇（子が2人以上なら年間10日間、1人なら5日間）」を利用しながら働いており、毎日の子どもたちの保育園への送迎や、急に体調を崩したりしたとき等に、非常に助かっています。その他にも、「部分休業」や「育児短時間勤務」等、多様な制度があり、それぞれの家庭・職場の状況や勤務地によって、自分に合った働き方を選択することができます。また、子育て支援の制度は整っていても、実際に利用できる環境かどうかも大切です。愛媛県では、子育て世代を応援し、支えてくれる環境があります。
家庭のことも大切にしつつ、資格を生かした仕事がしたい。そんな気持ちを実現してくれる職場です。

私が働いている動物愛護センターは、動物愛護管理業務が主な業務内容で、動物の収容・譲渡や動物取扱業に係る業務を行っています。今まで自分が関わってきたものとは異なる仕事で、初めは戸惑うこともありましたが、今は獣医師としての幅が広がったように感じています。県職員は、異動が宿命ですが、多様な仕事に関わることで自分の知識や経験を広げ、社会に貢献できる獣医師になりたいと考えています。

愛媛県は、気候も穏やかで、食べ物もおいしく、自然も豊かなとても過ごしやすいところです。瀬戸内海の島々はとてもきれいで、私も休日にはドライブに出かけることが大好きです。
環境に恵まれた愛媛県で、ぜひ一緒に働きましょう！
（入庁１年目）

みきゃんと子どもたち

問合せ先

愛媛県保健福祉部健康衛生局薬務衛生課

〒790-8570　愛媛県松山市一番町４丁目 4-2

Tel　(089)912-2390

Fax　(089)912-2389

E-mail　yakumueisei@pref.ehime.lg.jp

○　インターンシップや職場見学も実施しておりますので、是非ご相談ください。

愛媛県職員採用情報ホームページ

http://www.pref.ehime.jp/employment/